

■竹中英太郎 戦前に探偵小説挿絵で人気絶頂も姿消し、戦後、社会運動に奔走、子労を手伝ううち復活し、伝説化。

たけなかえいたろう

満鉄発足・・・1906＝ 福岡市上名島町で、竹中友吉・マサ夫妻の三男、七人兄妹の末子に生まれる。

韓国反日暴動1907＝ 1歳：父が死去。二十歳の長姉が盲目で、家族全てを母が背負う過酷な生活となり、

大逆事件判決1911＝ 5歳：長姉は旅の雲水と行方知れず、長兄以下は奉公か嫁に出て、_母だけとの暮らしとなる。仕事から帰る母を待ち、一人絵を描くことを覚えたという。

明治天皇没・・・1912＝ 6歳：

大正政変・・・1913＝ 7歳：福岡市大名小学校へ入学。

21ヶ条要求・・・1915＝ 9歳：

ロシア革命・・・1917＝11歳：熊本市大江村の次姉の嫁ぎ先長島甚三郎を頼り、母とともに身を寄せ、大江小学校へ転入。_学業優秀で、やがて“神童”扱いされるようになる。

ベルリン条約・・・1919＝13歳：熊本県立熊本中学校入学。学費を稼ぐために、早朝に新聞配達、下校後も無尽講の集金などで働く。

原敬首相暗殺1921＝15歳：中退し、熊本警察署の給仕となる。特高課に配属され、押収された社会主義文献を隠れて読み影響を受ける。_前年創刊したばかりの{新青年}に一等入選、さらに“コマ絵”が掲載されて、投稿マニアとなる。

水平社結成・・・1922＝16歳：警察署を辞めて、長島家の鉄工所を手伝う一方、熊本五高社研と無産者運動の青年らが組織した{七日会}に加盟、各種運動を支援。地元映画誌に投稿・掲載、映画ファンの顔も。

関東大震災・・・1923＝17歳：「貧乏人大演説会」「警察糾弾市民大会」など開催、壇上にも上る。{新青年}投稿欄などに度々コマ絵掲載。護憲三派圧勝1924＝18歳：田代倫らと{熊本無産者同盟}結成し、熊本初のメーデーを組織。その後、オルグで筑豊炭坑へ潜入するも、苛酷な労働に仲間はずれ脱落、自らも筑豊を去る。革命運動には勉学も必要との志で上京。

治安維持法・・・1925＝19歳：第一外国語学校英文科に入学、川端画学校にも入門。学資を得ようと労働雑誌などに挿絵を描き始める。円本時代始・・・1926＝20歳：挿絵を担当して同郷の作家小山勝清との縁、下落合の“熊本人村”に住み、高群逸枝夫妻らの知遇を得る。

金融恐慌・・・1927＝21歳：ブラトン社に熊本県出身の西口紫漢新編集長を訪ね“挿絵見本”を見せて採用され、挿絵を描く。共産党事件・・・1928＝22歳：ブラトン社専属画家となる話に勇躍するも、同社が倒産。紹介してもらった*博文館の横溝正史編集長の抜擢で、江戸川乱歩「陰獣」の挿絵を描くや、その異様な画風が注目されてデビュー。博文館専属として数々の雑誌に挿絵を描くが、フリーとなる。左翼芸術同盟への参加、熊本出身の伊津野八重子との結婚、長男労の誕生、熊本から母たちを呼び寄せるなど激動の年となる。乱歩と“名コンビ”を謳われるようになり、

世界恐慌・・・1929＝23歳：_次々挿絵。夢野久作との仕事も始まり、幅広い雑誌から挿絵依頼が殺到、挿絵画家の名声を高まるが、満州事変・・・1931＝25歳：単行本装画・装幀の仕事も多くなるが、_流行挿絵画家の生活に煩悶し国家社会主義運動への参加を模索。青

年將校らの組織{桜会}に接触し、文壇・画壇と青年將校らとの交流会{五日会}発足に参加、

国際連盟脱退1933＝27歳：

帝人疑獄事件1934＝28歳：月刊満洲東京支社長の肩書きを得て、{コドモ満洲}に絵を描くようになる。

芥川直木賞始1935＝29歳：*集大成として横溝正史の「鬼火」を描き、出世作の乱歩「陰獣」を描き直して、挿絵画家生活と決別。

二二六事件・・・1936＝30歳：二・二六事件で、{桜会}などとの関係から本富士署に連行され、釈放されるも、妻子を残して満洲へ。

日中戦争始・・・1937＝31歳：{月刊満洲・日本版}が創刊、東京支社長となるも不振で、すぐに発行中止。

総動員+健保・・・1938＝32歳：_消息不明となり、岩田専太郎が著作「挿絵の描き方」で竹中英太郎を懐しむに至る。

第二次大戦始1939＝33歳：東京の立会川に立会鉄工所を開業し、

大政翼賛会・・・1940＝34歳：平島つね子と再婚し、先妻から労を引き取る。

日米開戦・・・1941＝35歳：

近代の超克・・・1942＝36歳：母が死去。戦時企業整備令で、堅実に稼働してきた鉄工所が閉鎖に追い込まれ、所待していた挿絵掲載誌や資料を全て焼却。陸軍報道班員になることを勧められるが、固辞。

創価学会検挙1943＝37歳：妻の故郷山梨県甲府へ、一家で疎開。

年金+総武装・・・1944＝38歳：山梨日日新聞社に入社。勤労動員署や出征兵士の家族などをレポート。

敗戦・・・1945＝39歳：敗戦後は、政党労農記者として活躍。

新憲法公布・・・1946＝40歳：文化欄連載小説などに挿絵やカット、レタリングを描きながら、山梨日日新聞社従業員組合を結成して書記長、県労協統一で書記長に就任。_以後、さまざまな労働運動に積極的に従事していく。

新憲法施行・・・1947＝41歳：県内労組全体選挙により最高点で山梨県地方労働委員会の労働者側委員となり、山梨県労農統一メーデーで議長。末広厳太郎と出会って決意を新たにす。続発する争議に、地労委委員として解決に向け活動。

極東裁判決・・・1948＝42歳：日本新聞労連結成し中央執行委員会副委員長になるなど、_名前が出、画壇復帰勧められるも取合わず。三大事件・・・1949＝43歳：退職し、県会議員補欠選挙に立候補するも、惜敗。県統一メーデー議長。社会党山梨県連顧問。

朝鮮戦争始・・・1950＝44歳：甲府に{民主化相談所}を開設、同時に書店{ブックサービス}印刷所{山梨美術孔版社}の経営も始める。

独立回復・・・1951＝45歳：山梨県知事選挙に保革連合結成して、天野久を擁立し、官選知事に圧勝。県要職をすすめられるも辞退。

テレビ放送始・・・1953＝47歳：山梨一般合同労働組合・同連合会を結成し、執行委員長。以後、県労連内異端派として行動。

安保闘争・・・1960＝54歳：

全国総合計画1962＝56歳：地方労働委員会公益委員、会長代理。十件の労働争議を調停。_加太こうじが戦後初めて英太郎に言及。

大学紛争始・・・1965＝59歳：山梨県地方家庭裁判所の調停委員。_長男労が出世作「美空ひばり」で、父英太郎について初めて記述。

美濃部都知事1967＝61歳：労がプロデュースした京都府制百年記念映画「祇園祭」の宣伝パンフのイラストなど描き未発表となるも、

震ヶ関ビル・・・1968＝62歳：うち一つが{話の特集}の労の評論のタイトル画となり、_30年ぶりに全国誌に挿絵が登場。全共闘ビル・・・1969＝63歳：*プロデュースのLPレコード「日本禁歌集」シリーズのジャケット用に彩色画を描き、画家として復活、大阪万博・・・1970＝64歳：*衝撃を与え、英太郎の新しい伝説が生まれる。戦前の全盛期を思わせる筆致に若者たちは刮目。

ドルショック・・・1971＝65歳：以後、多くの労著作に装画を描き、父子共働作業の一方地元の月刊誌{情報山梨}にコラム等を執筆。

日中国交回復1972＝66歳：琉球独立党機関誌{三星天洋}表紙をデザイン。{話の特集}で、「対決・硬骨漢」と題し永忠順と対談。以後{話の特集}コラム「明治村」のレギュラーに。テレビ山梨「日曜放談」にレギュラー出演。

石油ショック1973＝67歳：労が「ニッポン春歌行/もしくは春歌と革命」表紙に「夢を吐く女」を使用。

角栄金脈辞任1974＝68歳：労による初の父親論「百怪、わが腸に入らん竹中英太郎小論」。_労の企画招請によるマレーネ・ディートリッヒ・ショーのためにポスター、プログラムのデザインを担当、帝国ホテルのディートリッヒが宿泊する部屋に、彼女をモデルにした三枚の絵を描き飾る。彼女はうち一枚を持ち帰ったといわれる。

クランプール事件1975＝69歳：労の沖縄島唄の取材紹介活動のビジュアル面を引受け、_この年をピークに、比類ない作品群を残す。

成田衝突・・・1978＝72歳：

革新大敗北・・・1979＝73歳：_映画「戒厳令の夜」のため南米コロンビアへ飛び、作中画家としてキーとなる「少女像」三点ほか数点描く。

中曽根内閣・・・1982＝76歳：

・・・1984＝78歳：株式会社中部文教を設立し、社長に就任。この頃、山梨県の広報誌{甲斐路観光だより}にカット多数。バブル始・・・1986＝80歳：労「にっぽん情寄行」のカバー絵「花電車の女」を最後に、筋無力症となり、絵筆をとることが不可能となる。{別冊太陽・絵本名画館・探偵怪奇のモダンイズム}に主要作品が収録され、話題を呼ぶ。

竹下内閣・・・1987＝81歳：

リクルート事件・・・1988＝82歳：*{太陽}のインタビュー記事で‘モボ・モガも新人類も大いに結構’と言ったのを最後に、所用で上京中に虚血性心不全で倒れ、没した。

鈴木義昭「夢を吐く絵師 竹中英太郎」、